北京外国语大学外国文学选集丛书

日本文学选集

赵晓柏 应杰 陶振孝 编著

外语教学与研究出版社

日本文学选集

赵晓柏 应杰 陶振孝 编著

阜阳师范学院图书馆
藏书

外语教学与研究出版社
北京

图书在版编目(CIP)数据

日本文学选集／赵晓柏，应杰，陶振孝编著．— 北京：外语教学与研究出版社，2008.4
ISBN 978－7－5600－7465－8

Ⅰ．日… Ⅱ．①赵… ②应… ③陶… Ⅲ．①文学—作品综合集—日本—古代 ②文学—作品综合集—日本—现代 Ⅳ．I313.11

中国版本图书馆 CIP 数据核字（2008）第 048344 号

出 版 人：于春迟
责任编辑：刘 军
封面设计：张 峰
出版发行：外语教学与研究出版社
社 址：北京市西三环北路 19 号（100089）
网 址：http://www.fltrp.com
印 刷：北京双青印刷厂
开 本：850×1168 1/32
印 张：21.875
版 次：2008 年 4 月第 1 版 2008 年 4 月第 1 次印刷
书 号：ISBN 978－7－5600－7465－8
定 价：38.90 元

* * *

如有印刷、装订质量问题出版社负责调换
制售盗版必究 举报查实奖励
版权保护办公室举报电话：(010)88817519

前　言

中国和日本是近邻，中日两国的交往久远且曲折，日本文学也离我们不远。无论是早期的《源氏物语》，还是今天的《挪威的森林》，在中国都有不少读者。至于诺贝尔文学奖获得者川端康成、大江健三郎的名字我们更是耳熟能详。日本文学为我们描绘了日本不同时期社会生活的生动画面，其中的题材、主题、思想和语言从人与人的社会关系的角度，为我们揭示了日本社会发展的基本机制，帮助我们认识了日本各阶层人群的情感与性格特点。我们能通过日本文学作品触及到日本人的心灵，透过对日本文学作品的赏析感悟到日本文化的真谛，丰富对日本语言要义的理解。总之，日本文学是我们广泛深入了解和研究日本的重要窗口。

日本文学历史久远、篇章浩瀚，为方便读者通过有限的阅读来初步把握日本文学的全貌，本书精心选编了从日本古代到现代不同时期标志性作家的若干代表作品。这些作品每篇都在日本文学史上举足轻重，是日本文学作品长河中的精华。选篇时，除了注重作品的经典地位外，还注意了体裁的广泛性，本书收集

了和歌、俳句、小说、故事、随笔、文学评论等，以多样化的方式向读者展现了日本文学发展的基本线索和日本文学风格的基本特色。

经典作品，主要是那些年代久远的经典作品，常常使读者囿于语言难懂而受困。为方便读者阅读这样的作品，本书为古代部分的作品配了现代日语的译文，希望能对读者理解原文有所帮助。本书还对每篇作品的概貌、时代背景和作家做了较为详尽的介绍。

本书可以用做日语专业高年级日本文学选读课的教材，也可以作为其他读者学习、了解日本文学的基本读物。为了方便课堂教学以及使读者更好地理解作品，每篇作品后都设有思考题。

在成书过程中，日本的木村正中教授和中国的严安生教授为本书提出了很多宝贵的建议，在此，我们对两位先生的支持和帮助表示衷心的感谢。

把日本文学中最重要、最精彩的部分献给读者是我们的初衷。但限于我们的学识，选材时难免顾此失彼，敬请读者谅解。

编者

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

北京外国语大学学术系列丛书

编辑委员会

主 任 委 员：王福祥

副主任委员：何其莘

委员（以姓氏笔画为序）

刘润清　　余章荣　　李朋义
胡文仲　　胡壮麟　　黄　勃

北京外国语大学

外国文学选集丛书

各选集名称	编　者
《英国文学选集》	何其莘（博士、教授）
	张　剑（博士、副教授）
	侯毅凌（副教授）
《美国文学选集》	钱　青（博士、教授）
	金　莉（博士、副教授）
《俄罗斯文学选集》	张建华（教授）
	任光宣（教授）
	余一中（教授）
《德语文学选集》	韩瑞祥（博士、教授）
《法国文学选集》	张　放（教授）
	晶　尼（副教授）
《意大利文学选集》	沈萼梅（教授）
《西班牙文学选集》	刘永信（教授）
	董燕生（教授）
	丁文林（副教授）
《拉丁美洲文学选集》	郑书九（博士、副教授）
	常世儒（博士、副教授）
《阿拉伯文学选集》	齐明敏（博士、副教授）
	薛庆国（博士、副教授）
	陈冬云（博士、副教授）
《日本文学选集》	赵晓柏（副教授）
	应　杰（副教授）
	陶振孝（教授）
《韩国文学选集》	金京善（博士、副教授）

目　録

上代の文学 1
上代文学概観（大和・奈良時代） 2
上代文学の特質 3
一　万葉集 4
二　古事記 7
1. 八雲立つ 7
2. 枯野琴 14

中古の文学 17
中古文学概観（平安時代） 18
中古文学の特質 20
一　竹取物語 21
1. かぐや姫の生ひ立ち 21
2. かぐや姫の昇天 25
二　古今和歌集 35
三　伊勢物語 37
1. 初冠 37
2. 東下り 39
3. 芥川 45
4. 筒井筒 47
四　大和物語 52
1. 安積山 52
2. おば捨山 56
五　土佐日記 59
1. 門出 59

2. 忘れ貝 62
3. 帰京 66
六　枕草子 69
1. 春はあけぼの 69
2. 上にさぶらふ御猫は 72
3. すさまじきもの 81
4. 木の花は 84
5. はしたなきもの 85
6. 賀茂へ参る道に 90
7. 雪のいと高う降りたるを 91
七　源氏物語 93
1. 桐壺の更衣 93
2. 若紫 100
3. 心づくしの秋 112
4. 母子の別離 120
5. 鶯の初音 126
八　更級日記 131
1. あつまぢの道の果て 131
2. 源氏の五十余巻 134
九　大鏡 138
1. 雲林院の菩提講 139
2. 花山天皇の出家 143
3. 南院の競射 147
十　今昔物語集 151
清水に参れる女の子、前の谷に落ち入りて死なざりし語 151

中世の文学 155
中世文学概観（鎌倉・室町時代） 156
中世文学の特質 157
一　新古今和歌集 158
二　平家物語 160

1. 祇園精舎 160
2. 宇治川の先陣 163
3. 忠度の最期 172
三　宇治拾遺物語 176
1. 児の空寝 176
2. 猟師、仏を射ること 179
四　方丈記 184
1. ゆく川の流れ 184
2. 安元の大火 188
3. 閑居の気味 191
五　徒然草 194
1. つれづれなるままに 194
2. 神無月のころ 196
3. 同じ心ならむ人と 197
4. 仁和寺にある法師 199
5. ある人、弓射ることを習ふに 201
6. 心なしと見ゆる者も 203
7. 世に従はむ人は 206
六　隅田川 210
七　御伽草子 236
一寸法師 236

近世の文学 249
近世文学概観（江戸時代） 250
近世文学の特質 251
一　世間胸算用 253
鼠の文づかひ 254
二　奥の細道 264
1. 旅立ち 264
2. 松島 270
3. 平泉 273
三　俳句 277

四　雨月物語 278
夢応の鯉魚 278

近代の文学 293
近代文学概観(明治・大正・昭和時代) 294
近代文学の特質 300
一　浮雲 301
二　十三夜 329
三　少年の悲哀 356
四　親子そば三人客 368
五　深川の唄 381
六　舞姫 401
七「藤村詩集」序 431
八　心 435
九　刺青 456
十　小さき者へ 470
十一　羅生門 489
十二　城の崎にて 503
十三　秋立つ 514
十四　蠅 525
十五　葬式の名人 537
十六　セメント樽の中の手紙 550
十七　黒い雨 557
十八　不器用な天使 585
十九　魚服記 612
二〇　野火 625
二一　サーカス 644
二二　棒 657
二三　不意の唖 667

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

上代の文学

上代文学概観（大和・奈良時代）

日本文学の発生はいつとも知ることができないが、かなり早い時期に口から口へと語り伝え、歌いつがれた口承文学が存在していた。上代文学は大和・奈良時代の文学とも呼び、794年の平安京遷都までの文学をさす。上代は、口承文学から文字によって記録された記載文学へと進展した時代である。

四世紀ごろから朝鮮半島や中国大陸との国家間の交流が始まり、六世紀ごろに漢字や仏教が日本に伝わったが、七世紀までは日本語を表記する文字を持たなかった時代であり、文字で表現された文学は八世紀に始まる。

皇室中心の時代　八世紀の日本は、中国の政治·制度·文化を模範とし、天皇を頂点とした律令国家を大和（奈良）地方を中心に確立発展させていた。そういう時代状況の中で、対内的には皇室を権威づけ、対外的には国家の地位を確立しようと、口承文学以来の神話·伝説·歌謡が整理統合され、史書あるいは神話·伝説文学としての『古事記』と『日本書紀』が誕生する。宮廷外では、諸国の民間伝承や風土·産物などを記した『風土記』も編集された。

中国文化の伝来　中国文化を取り入れようと聖徳太子は遣隋

使を派遣し、後に遣唐使の派遣も続けられた。遣隋使、遣唐使の派遣により中国文化が移入され、漢詩漢文の創作も盛んだった。その代表的なものに、名前は残っていないが、およそ当時の上流知識階級だろうと思われる人によって編集された日本最古の漢詩集『懐風藻』がある。

「まこと」の文学　漢詩に対し、「記紀歌謡」から発達して、和歌も作られた。七〜八世紀の百五十年にわたる皇族、貴族から下級官人や東国農民までの歌（約4500首）を集めた『万葉集』は、日本の和歌の伝統の礎を築くことになる。素朴で力強い表現の中に率直な感動をこめたそれらの歌は、古代の人々の感情を自然に表現している。

上代文学の特質

1. **口承文学から記載文学へ**　記載文学が成立する時期だが、口承文学の占める比重が大きい。
2. **「まこと」の文学**　素朴・誠実、古代人の感情や実状をありのままに表現しようとする「まこと」の精神に満ちている。
3. **中国文化の伝来**　中国文学や仏教の影響を受け始めている。
4. **即興的な叙情**　具体的な物や眼前の事象に即して、感動や思考を表現しようとする傾向が強い。

一 万葉集

142 家にあれば笥に盛る飯を草枕①旅にしあれば椎の葉に盛る

有間皇子

8 熟田津②に船乗りせむと月待てば③潮もかなひぬ今はこぎいでな④

額田王

264 もののふの八十⑤宇治川の網代木⑥にいさよふ波の行くへ知らずも

柿本人麻呂

271 桜田⑦へたづ鳴き渡る年魚市潟⑧潮干にけらしたづ鳴き渡る

高市黒人

893 世の中を憂しとやさし⑨と思へども飛び立ちかねつ鳥にしあらねば

山上憶良

---

① 草枕 「旅」の枕詞。
② 熟田津 今の愛媛県松山市の一部。
③ 月待てば 月の出を待っていると。
④ 今はこぎいでな さあ今は船をこぎ出そうよ。
⑤ もののふの八十 「もののふのやそ」は、ウヂの序詞。宇治川は琵琶湖に発し、淀川に入る。
⑥ 網代木 川の中にくいを打ち、竹の簀をかけて魚を取るしかけを網代と言い、そのくいを網代木と言う。
⑦ 桜田 今の名古屋市南区元桜田町の辺り。
⑧ 年魚市潟 今の名古屋港の辺り。
⑨ やさし 恥ずかしい。

924 み吉野の象山⑩の際の木末にはここだも⑪騒く⑫鳥の声かも

山部赤人

4292 うらうらに照れる春日にひばりあがり心悲しもひとりし思へば

東歌⑬ 大伴家持

3373 多麻川⑭にさらす手作り⑮さらさらに何ぞこの子のここだかなしき

3399 信濃道⑯は今の墾道刈りばね⑰に足踏ましなむ沓はけわが背

防人の歌⑱

4346 父母がかしらかきなで幸くあれて⑲言ひしけとばぜ⑳忘れかねつる

4425 防人に行くはたが背と問ふ人を見るがともしさ㉑物思ひもせず

---

⑩ 象山　象山の山あい。「象山」は、奈良県吉野町の宮滝の南方にある。
⑪ ここだも　こんなにもたくさん。
⑫ 騒く　のちに「騒ぐ」となる。
⑬ 東歌　東国地方の歌。「万葉集」では静岡県・長野県から東北地方に及ぶ。
⑭ 多麻川　今の多摩川。東京都の北西から南東に流れ、東京湾に注ぐ。
⑮ 手作り　手織りの布。二句までが「さらさらに」の序詞。
⑯ 信濃道　和銅六年（713）に開通した。
⑰ 刈りばね　切り株。
⑱ 防人の歌　「防人」は、「埼守」で、北九州防衛の兵士。多く東国の農民が徴用された。防人の歌は、この防人とその家族の歌である。
⑲ あれて　「さきくあれと」（無事でおいでと）の東国方言。
⑳ しけとばぜ　「ことばぞ」の東国方言。
㉑ ともしさ　うらやましいことよ。

● 思考問題

一、防人の歌の心情について話し合ってみよう。

二、好きな歌一首を選んで、鑑賞文を作れ。

● 作家・作品紹介

万葉集（まんようしゅう）　歌集。二十巻。それ以前に成立した歌集や歌日記に類するものを集大成したもの。最終的な編者は大伴家持か。成立は八世紀後半と思われる。歌体は長歌・短歌・旋頭歌・仏足石歌体の歌にわたり、歌数四千五百余首。歌風は素朴・雄健で、万葉調と呼ばれる。

有間皇子（ありまのみこ）（640—658）　孝徳天皇の皇子。斉明天皇四年（六五八）反逆者とされ刑死。

額田王（ぬかたのおおきみ）（生没年未詳）　鏡王（かがみのおおきみ）の娘。天智・天武の両天皇に愛された。集中第一の女流歌人。

柿本人麻呂（かきのもとのひとまろ）（？—709？）　持統・文武の両天皇に仕えた。赤人とともに歌聖と言われる。

高市黒人（たけちのくろひと）（生没年未詳）　人麻呂と同じころの人。旅の歌が多い。

山上憶良（やまのうえのおくら）（660？—733？）　神亀三年（726）のころ筑前守となり、当時大宰の帥であった大伴旅人と知り合った。人生詩人と言われる。

山部赤人（やまべのあかひと）（生没年未詳）　奈良朝初期から中期の人。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com